平成23年12月2日　金曜日

奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
（奈良県保健環境研究センター内）
Nara IDSC

今週の概要

- 今週の感染症情報
- 全数報告対象感染症発生状況（10月）New
- 奈良県結核患者情報（10月）New
- 気になる話題　～今年のマイコプラズマ肺炎～New

（調査週）　平成23年　第47週　11月21日（月）～11月27日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況　（奈良県上位５疾患）（５週前からの動向）

順位	疾　患	定点当り	奈良県	北　部	中　部	南　部
1	感染性胃腸炎	2.91	↑	↑	→～↑	↑↑
2	A群溶連菌咽頭炎	1.46	→～↑	→～↑	↑	↓
3	水痘	1.06	→	→～↑	→～↑	→～↓
4	RSウイルス感染症	0.63	→～↑	↑	→～↓	↓
5	咽頭結膜熱	0.37	→	↑	→～↓	→

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況　報告数は129例で、前週報告の143例からやや減少。上位５疾患は、①感染性胃腸炎、②A群溶連菌咽頭炎＝水痘、④RSウイルス感染症、⑤咽頭結膜熱の順。感染性胃腸炎の報告数（50例）は、やや増加。RSウイルス感染症の報告数（17例）も、やや増加。水痘の報告数（20例）は、ほぼ横ばい。咽頭結膜熱の報告数（6例）も、ほぼ横ばい。A群溶連菌咽頭炎の報告数（20例）は、減少。なお、インフルエンザ定点より、42週（郡山HC管内；1例）以来初めて、郡山HC管内から1例の報告があった。奈良市HCおよび郡山HC両管内基幹定点から、マイコプラズマ肺炎が各々順に1例、2例の計3例報告された。奈良市HCおよび郡山HC両管内眼科定点からの報告はなかった。（村井　記）

県中部地区概況　報告数は46週の128例から、47週は117例とやや減少した。上位の5疾患（46週→47週）は、①感染性胃腸炎（41例→44例）、②A群溶連菌咽頭炎（20例→30例）、③水痘（11例→12例）、④手足口病（24例→8例）、⑤咽頭結膜熱（7例→7例）＝突発性発疹（7例→7例）の順であった。感染性胃腸炎はやや増加し1位、A群溶連菌咽頭炎が増加し2位に、手足口病は減少し4位に、RSウイルス感染症も減少し7位となった。インフルエンザの報告が葛城HCより1例あった。眼科定点からは葛城HCより流行性角結膜炎1例の報告があった。基幹定点からの報告はなかった。（徳田　記）

県南部地区概況　報告数（第46週→第47週）は28例→18例と減少。報告のあった疾患は①感染性胃腸炎（4例→8例）、②水痘（17例→5例）、③マイコプラズマ肺炎【基幹定点】（0例→2例）、④A群溶連菌咽頭炎（0例→1例）、④手足口病（4例→1例）、④突発性発疹（3例→1例）であった。（柳生　記）

【全数報告対象感染症発生状況（平成23年10月）】

平成23年10月に奈良県内の保健所に届出のあった全数報告対象感染症は、以下の通りです。

10月報告患者数（平成23年11月28現在）

類型	疾患名/保健所名	奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野	10月計
2類	結　核	7	6	5	9	1	1	29
3類	腸管出血性大腸菌感染症	2						2
4類	レジオネラ症		1					1
5類	アメーバ赤痢		1	1				2

（感染症情報センター　記）

奈良県結核患者情報

奈良県感染症情報センターでは結核患者発生動向情報の提供を始めました。
今回は１０月の新規届出状況をお知らせします。

表．結核届出数　（平成２３年４月～）

市町村		10月	総計
北和	奈良市	7	53
	大和郡山市		13
	天理市	1	13
	生駒市	1	16
	平群町		4
	三郷町	1	5
	斑鳩町		4
	安堵町	3	3
中和	大和高田市	2	13
	御所市	2	7
	香芝市		12
	葛城市		5
	上牧町	3	8
	王寺町	1	10
	広陵町	1	9
	河合町		2
	橿原市	2	15
	桜井市		9
	宇陀市	2	2
	三宅町		1
	田原本町		5
	高取町		1
	明日香村	1	1
南和	吉野町		2
	大淀町	1	4
	五條市	1	11
	十津川村		1
合計		29	229

（11月28日現在）

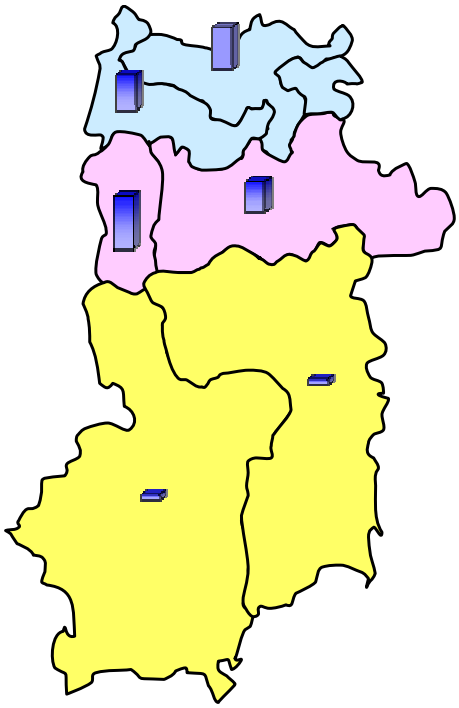

図 1．保健所別届出数（10 月受理分）

【気になる話題　～今年のマイコプラズマ肺炎について～】

・全国の発生状況

マイコプラズマ肺炎は、細胞壁を持たない細菌に属する、肺炎マイコプラズマ（*Mycoplasma pneumoniae*）を病原体とする呼吸器感染症です。感染経路は、飛沫感染や接触感染です。今年は、このマイコプラズマ肺炎の報告数が過去 10 年に比べ、著しく多くなっています（図 1）。

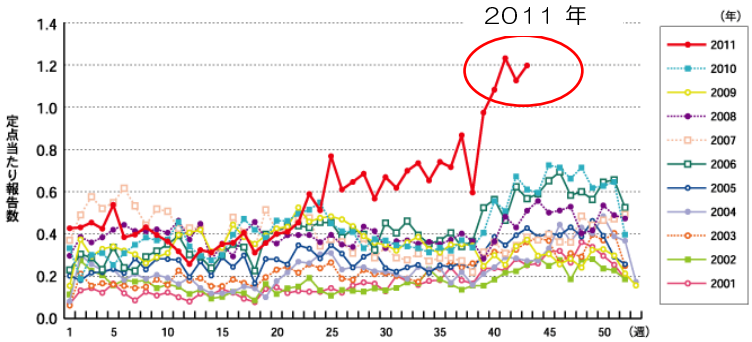

図1. 全国のマイコプラズマ肺炎の年次変化（2001～2011 年）
（IDWR 感染症発生動向調査週報から引用）

・都道府県別の状況

定点当たりの報告数を都道府県別に見てみますと、赤丸で示した地域においては、全国平均と比べ明らかに報告数が多く、また、全国に分散しているのが見て取れます。

近畿圏では、大阪府から多数の報告があります（図２）。

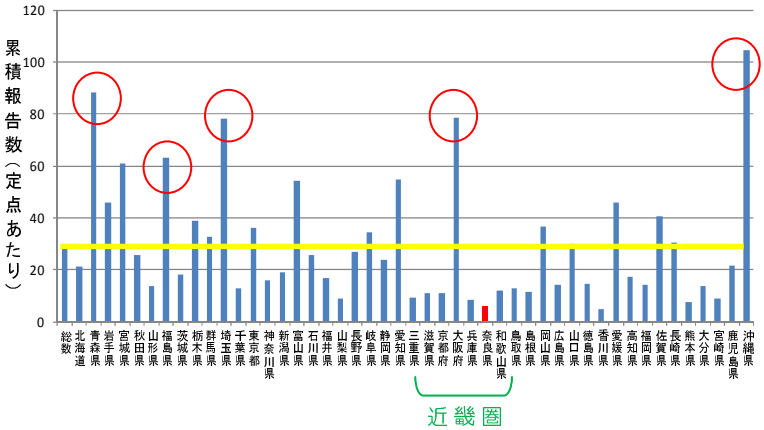

図2. 都道府県別定点当たり累積報告数（2011 年第 46 週まで）
（IDWR 感染症発生動向調査週報データより作成）

・奈良県の状況

今年の報告数は、１週間当たり 0～4 例で例年と大差ない状況です（図３）。しかし、本県は、大阪府と通勤・生活圏を共有している地域があり、今後の動向に注意が必要です。

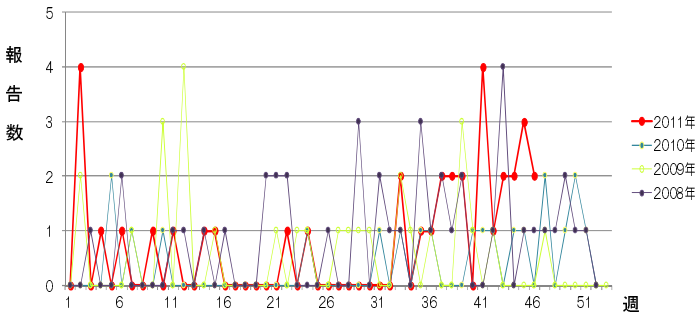

図３. 奈良県の年別発生状況（2008～2011 年）

（参考）国立感染症研究所感染症情報センター「マイコプラズマ肺炎」
http://idsc.nih.go.jp/disease/mycoplasma1/index.html

（感染症情報センター　記）